

刊夕日二月五

常磐毎日新聞

定価 一部金五銭 五拾銭 郵税五厘
 廣告料 五號十二字一行情五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

(大衆文藝)

蜘蛛失戀譚

木津 茂太郎

(二)

「お母アくも！ 蜘蛛です！」
 「どうしてお前は小さい時からそんなに蜘蛛が厭ひなんだらうね」
 「えお、お母ア、俺ア厭ひやな物を見てしまった。女、女郎蜘蛛だ！ ちえッ！」
 桐助と母はじつと向ひ合つて笑つたまゝ何時までも動かないでゐた……。

「桐さん」

誰か雨戸をホトホトと叩いてゐる。母親が出て見ると村の人達で傘を各々さし掛けて立ち群れてゐた。朝も未だ早く春の雨がしとしと降つてゐる。人の心さへもしみみんと濡らすやうに降つてゐる。

村人達は庄屋様の屋敷へ行くのだつた。相談會が村の事に就いて開かれるのだつたで、順々に村の若者の家へ寄つて行くのである。母親は桐助をゆり起した。桐助は顔を洗ひ、飯をたべてそゝくさと村人達と出掛けて行つた。野にも山にも細い絹糸のやうな雨が音もなく静かに降り注いでゐた。

村人達は退屈まぎれに話し出した彼等の話は何時の間にか兼齋の娘お伊那へ移つてゐた。
 「あんな綺麗な女子は一寸のねえだ」
 「お前のかかあよりやア美しや」
 「餘計な事を云ふな」
 「あの娘を藝者にしたらいい藝者になるでえな」
 「三吉すら藝者買ひに出掛けてばかりゐて仕様が無かんべえ」
 「止してくんなよ。そんなのちやアねえからね」
 お伊那のよく働くことや兼齋の人柄の立派なことをんな話はよかつたが、話は次第に艶っぽい方へ進展したお伊那にぞつこん打ち込んであの家へ灯取蟲のやうに群らがる男たち、中には庄屋の若旦那も居れば誰彼もさうだといふ話、町の方からさへも室町新七とか云ふ無ツ白い二本棒の若い男がしげくお伊那の家へやつて来るといふこと。

桐助はぶりぶりしてゐたそんな話は止めにして呉れと思つてはゐたがさうも口に出して云へなかつた。心外なのは室町新七である。お伊那と其侍とが、仲であるのが彼にばんやり乍ら判つて来た。
 桐助は心の中でこんな事を云つて見た。
 「お伊那さん！ あんたには新七といふいゝ人があると云ふ評判だ。それアほんとうなのかね」
 庄屋の屋敷も近くなる邊りて人知れず彼はその群の中から脱け出して傍道に外れてしまつた。
 幾日かの後。
 明るい日光であつた。
 小高い丘にお伊那と室町新七とは肩を並べて立つてゐた。
 あまい〜戀の語りひ、すべてが二人を祝福してゐる。小鳥が何處かで囀つてゐる。
 だが、その丘へ登る竹林の中の細徑を手に斧をもつて登つて行く一人の男を見たらば誰でも蒼くなるに違ひない。
 それは桐助に相違なかつた。
 桐助は興奮に色を失つてゐた。
 「畜生！ 室町とか云ふ奴！ 俺はこの斧で、あいつを一人ぐりに殺してその場で自殺するんだ。お母アお前は濟まねえ。然し親不孝だがゆるしてくんなよ。俺らアお伊那さんに迷つたんだからなア」
 さう言ひながら登つてゆく

34年型新車購入

快ろよい微風が頬をかすめて吹く……野邊に、海邊にアナタのリーベとの遠乗りに散策に一御私用に一是非御愛乗下さい。セリザワのニュー・カーを！

平。三 芹澤タクシー 電 395

咽喉専門

平町田町七〇番地
 山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 電話六九一

山内洋品店
 平町田町通電話六五六番

●店員募集
 年齢十五、六才、希望者は至急来店あれ

吉田眼科病院

院長 吉田 安雄
 醫學士 吉田 久雄
 平瀬屋町電話六六番

魂の這入つた

フタバの自轉車で

フタバ式リヤカー發賣元
 フタバ商會
 平。新川町。月見橋際

評判で香りのよい

電熱ほうじ茶發賣

- 一號 一斤六〇 四半斤 一五
- 二號 一斤四〇 四半斤 一〇

大勝園 大黒ばしらは家の王
 お勝手道具は世帯王
 大勝園で買った茶は
 茶問のの玉よ客王間
 父様母様おすきの茶
 客のほめる茶 茶喜ぶ茶

平三 大勝園

電三九六番

ゼアラの自轉車 代理店
 宮田自轉車

エビスヤ自轉車店

平局御用
 平南町 電話六六四番
 ◇宮田自轉車九幸度郵便局納め
 五千二百輛

小店員入用 貳名(十五、四才)

大霜は免れたが

『猫毛病』の恐れ

郡農會對策發表

「大霜あり」との警報に接した各農村では夫々應急對策を施したが不安視された今朝は幸ひ霜が降らず唯多少の降雪があつただけで一難去つたわけであるが、昨今の天候不順の爲苗代に猫毛病が発生する恐れあるので石城郡農會各技手は連日それ／＼出張して苗代を調査し豫防法を指導してゐるが右に關し郡農會では語る

水路を迂迴せしめる等の方法により水温を温める事に努め實干を實施するとともに灌漑水の深淺に注意し地温を保つこと、及び播種に先立ち前日位に充分落水して床面一様に三斗式石灰「ボルドウ」液の撒布をなす事、猶ほ播種後に於ても晴天の日を選び、落水し四斗式石灰「ボルドウ」液（黒砂糖を全量に五十加用）を苗代全面に撒布する事、撒布後の灌水は半月以上を經過する事が必要である

『つゝぢ』を撫る

二百の觀賞客

第五回福島縣下盲人大會は来る十三日午前九時から平町警城訓盲院講堂で開かれ、平支部の三十名を筆頭に全縣下二十一支部から約二百餘名

がこれにはか弱き盲人の生命線を脅かすもので不況の荒波に揉み抜かれ喘ぎ續けてゐる折柄斷乎取締方を縣當局へ陳情することとを付議する外全國盲人協會福島支部へ補助金交付方を嘆願する件等があり了つて同所で

參集して、盲人の按摩營業上に於いて種々協議する筈であるがその中最近本縣に於いて電氣療法、マグネトロン療法その他無免許で施術を行つてゐる者

懇親會を開き散會後一同松ヶ岡公園へ繰り込み折柄園内に咲き誇る躑躅を

盲人特異の鋭敏な指先の觸感に訴へて花見ならぬ花觸をする筈で當日の公園のこの奇想外の躑躅觀賞客に依つて賑ふであらう

大會費用

寄附勸誘

按摩さんが

各戸を訪問

平鍼灸按摩マンサージ支部では別項の縣下盲人大會の當番になつてゐるが現下の不

動物虐待防止や

其他少年赤十字團の事業

既報平第一小學校五年生の少年赤十字團入團式は本日午後一時より講堂で執行式後團長篠山校長、副團長菅波主席訓導、幹事各訓導、班長各學年級長の任名式を行つたが同團では本年度事業として防火、左側通行時間勵行、動物虐待防止等の宣傳に努め趣意の徹底を計る筈

共同販米

また騰る

平農業倉庫の聯合販米共同販賣は昨日午後二時から田町農業倉庫に於いて開いたが出荷俵数は平九十二俵、勿來白四十七俵、神谷四十四俵、合計二百九十三俵で開札の結果は九圓二十五錢、前回の八圓九十一錢に比し二十四錢昂騰してゐる

滞納整理の競賣

各町村別執行する

縣稅務平出張所では滞納整理の大なだを振ふべく過般來所員を總動員して差押へを斷行し愈よ來る七日より左記日割により競賣を行ふことになつた

の百十七件を筆頭に總計七百四十五件を算し好況來るの聲も農村には未だ訪れるに至らない状態を物語つてゐる

- 二八八八日小名濱五四
- 玉川一六 小川七七 錦
- 二七 渡邊一六 植田七
- 三 勿來五〇 上遠野一
- 一七 九日 高久二二
- 豊岡九 江名一七 七十一
- 日 飯野一四 夏井二一
- 鹿島三 内郷三四 平窪三〇

書畫成績

第三小學校では来る三十日同校講堂に於いて春季書畫展覽會を開くことになり目下各級より陳列成績品を取纏めてゐる

植田馬市開く

植田馬市は來月十五日より一週間植田南市場敷地に於いて行はれる

平町人事

△三丁目五七 伊藤大助氏
二男武夫氏(二九)石川ヨ子さん(二三)

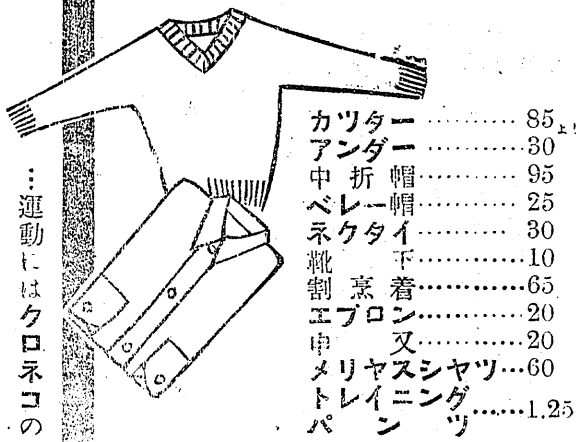
市原醫院

平町 田町
電話一四四番

有給社員招聘

◇外務社員 拾名
◇監督社員 三名
駐在地ハ福島縣内ニシテ本人ノ希望地
三井生命保險株式會社
東京市日本橋區室町三井第二號館
◎入社希望の方ハ左記出張所へ履歷書提出セラレタシ
平出張所
福島縣平町鍛冶町二九〔電五〇三〕

新型洋品豊富



- ツター 85
- カアン 30
- 折レタ 95
- 中ベネ 25
- 靴 30
- 靴 10
- 靴 65
- 靴 20
- 靴 20
- 靴 60
- 靴 1.25

平町二丁目〔電話六〇五番〕
山家メリヤス店

新車購入御披露

御待ち兼ねの一九三四年マスターセダン!!!本縣下の第一車が皆様の昭和へ入りましたニアクシヨン装置絶好の乗心地是非御試乗の程御願ひ致します。

呼び良い電話三四〇番増設致しました。

平町前 **昭和タクシー**
電話三四〇番
三四三番

後進の爲め

書籍を寄贈

在營中の伊藤君か 平青年訓練所へ

平町胡摩澤出身目下若松歩兵廿九聯隊第三中隊の伊藤勇君は兵隊の基礎典範である歩兵換典野戦築城教範外六冊の軍事参考書を本日本青年訓練所に寄附して来た

賽銭箱を

毎夜襲ふ

其他に餘罪

當時住所不定東京市芝口三丁目二無職泉六之助(註)は去る三十日夜材木町菓子商大鶴屋方工場より置時計價格五圓を窃盗した外先月中旬頃から毎夜長橋町尼子神社の賽銭箱より賽銭を搔拂ひ其上無銭飲食九件を働いたこと發覺昨一日平署に檢

タンク二臺

運動場に罷り出る

人氣を博す警中の運動會

既報警城中學校の第卅六回運動會は来る五日午前八時より同校々庭に於いて開催トランプ廿六種、フシリールド十八種を以つて約二百餘回の競技が行はれるが本年は時局柄五年生の戦闘教練あり煙幕、擬砲、投下煙幕等の外タンク二臺も罷り

出るといふ科學的擬戰術なので觀衆を喜ばせざるを得ない

平商五年 既報平 京阪の旅 商業學 校五年生五十餘名の修學旅行團は武田、泉田兩教諭引率のもとに來る十五日午前五時卅分平驛發列車にて四

泊正日間の豫定であるが見學プログラム左の如くである

- (十五日) 午發午前五時三十分上野着午前九時四十分八分、東京驛より横濱へ市内見學、静岡一泊(十六日) 静岡發午前五時五十分山田着内宮外宮參拜二見一泊(十七日) 二見發午前六時卅二分、奈良市内見學、大阪市内見學、京阪電車で京都へ途中桃山御陵參拜、京都一泊(十八日) 京都市内見學、京都發午後六時八分車中一

刑事の姿を見て

矢庭に逃げ出した不審の男

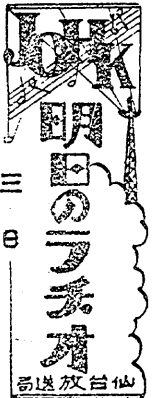
茨城縣多賀郡豊浦町川尻船乘業鈴木紋吉(註)は昨日午後六時頃内郷村御殿地内を通行中、密行中の平署柏木刑事の姿を見るや突然逃げ出したので有無を云はさず逮捕された犯罪があるではないかとの見込みで嚴重取調べ中である

江名町に

自動車御筒

三四年型の新シボレー

江名町消防組では過般來自動車ポンプを購入の爲め各會社と交渉中の處昨日福島モーター商會平出張所と契約成り價格六千圓の三四年型新シボレーが來月中旬頃到着すると尙ポンプは東京の市原商店製である由



明日のラジオ

今夜は北西の風 明日は南西の風 晴曇半す

- #### 今晚の部
- 後六、〇〇 子供の時間
 - 後六、二五 言葉の講座
 - (四) 文語と口語 標準語と方言 東條操
 - 後七、三〇 講演「ドイツ國民勞動祭日に際して」ドイツ大使セルベルトフ
 - 泊(十九日) 東京驛着午前五時五十分市内見學、上野發午後三時平着午後七時四十六分

植田納税慰安

町では明日午前十時より菊田座に於いて奇人猫八一行を招き納税組合員の慰安會を催すと

裁判所たより

△双葉郡廣野村字上城見川長谷川菊太郎(註)及び同郡木戸村字榎木下坑夫鈴木傳(註)安齊正次(註)大瀧定利(註)の四名は本年三月十九日木戸村伊勢炭礦坑内で花札賭博を開帳し略式命令により長谷川五十圓外三名は各廿圓の罰金 △去月廿三日双葉郡浪江町字上加倉大工岩野了亮方裏庭で軍雞賭博を行った浪江町權現堂永田武治(註)相馬郡福浦村安部寅之助(註)同郡金房村字門前小澤音五郎

- #### 明日
- 前、六三〇 基礎獨語講座(十一) 橋本忠夫
 - 前七、二〇 聖典講義「般若心經講義」(四) 高神覺昇
 - 前九、一〇 料理献立「端午の節句料理」小林忠雄
 - 後一〇、三〇 家庭婦人講座「誰れでも出来る應用藝術」(五) 須藤邦郎
 - 後一〇、五〇 琵琶「白虎隊」陸奥澤水
 - 後一〇、〇〇 大日本消防協會總裁梨本宮殿下奉戴賞
 - △店員 二十才以下 尋卒
 - 以上 以上圓前後
 - △線糸工 十三 三十才
 - 尋卒 日給二十五錢以上
 - △女中 二十才前後 尋卒
 - 五圓 八圓位
 - △回職を求める方
 - △土工夫 二十二才 高卒
 - △土工夫 二十五才 高卒
 - △電気機械 三十四才 尋卒
 - △土工夫 二十九才 尋卒
 - △雜役夫 三十才 高一修
 - △大工 二十四才 尋卒

花札賭博檢舉

湯本町字天王崎野菜行商馬上榮市(註)外三名は三月中旬から十數回に亘り榮市宅に於て花札賭博を開張したことを平署で探知、けふ檢舉

父房之助儀永らく病氣中の處療養不相叶本日午前一時死去仕候間此段御通知申上候

追申 葬送の儀は来る四日午後一時自宅出棺 性源寺に於て佛式を以て執行仕候 昭和九年五月二日

嗣子 福島縣平町研町 佐藤 芳松
親戚 山崎 與三郎
佐藤 千之助
吉田 慶吉
草野 吉甫
齋藤 榮吉
矢吹 大輔

友人 總代理人 矢吹 大輔

新音頭

(榮華殿上段及上段)

田邊南龍(作)
山本英春(監)

非人を斬つて
此の時権ハヅカ〜と進んで

「コレ〜非人共、定めし貴様達の身の上話は面白からう、どうだ、只聞きはせんとぞ、一人前二百文相違はさう、遠慮をせずに話して聞かせろ」

三人の乞食は飛起きて

「エ、ツ夫ぢやア私共に二百文宛お手當を下さるといふのでございませうか、どんな上手な講釈師でも、二百文の座料をお佛ひなされば太平樂で聞かれるのに、さりととは〜風雅な旦那様、ぢやア私共一生懸命話しますエヘン〜」

と咳拂ひをしながら座り直し

「抑も私の身の上と申しますれば鼻下長右衛門といふ歴然たる武士の伴一寸出るにも鞍置馬槍を持たせて歩さましてござるが、如何なる因果か飲む買ふ打つの三道樂、お鐵火様と浮名を立てられ、遂には親父に屋敷を追はれ、昨日の小袖は今日の酒蕪、終身のお太刀は竹杖と變るは浮世の習ひとは言ひながら草履取にも仲間にも共するものは赤犬ばかり、ぶらつかしたるに



引替へ、今は漸く薙刀の草履を膝に押當て生れも附かぬ覺の眞似右や左の旦那様何と可哀想ぢやアございませんか」

名乗つて出るも鳴瀬がましいが、拙者に元齋井竹庵と申する醫者の若旦那、蝶よ花よと育てられた身の上なれど、生得酒が好物にて、酒を飲んで口論喧嘩、迎も直らぬ伴の病と、親齊庵も匙を投げ、ちつと餘人に見せられよと、親の家から久離切つて勘當される事なしに據ろなく、蒲團は劍菱夜着は舞鶴非人になつた故事來歴斯くの如くござ

スルと又一人の乞食が

「私は元さる大町人の惣領の伴に生れましたが、男の好いのが疵となり、惚れられるのを好い事にして、様々の粹事の果が今の有様、イヤモウお羞かしい事でございます」

「さて其の次に控へしは上

く大町人の細首、サツと空に拂ひ上げ、蹠が立つて駈出すを、首をスポツと薙落せば、首なき體は面桶持つて二三間駈出した権八心地宜しと刀を納めて、小謠をうたひながら吉原へ入込んだ。

お話變つて此方は本庄助大夫の伴助七助八の兄弟、京、大阪を始め諸國を廻廻つて権八の行衛を尋ねましが分りません、江戸は諸國の國の集まる處、一ツ江戸を探して見やうと、江戸表へ出て参りて今戸邊に借家して、兄助七は手習の師匠、弟助八は小間物賣に身を獲して、毎日江戸中を此處彼此と掛し歩いてをります内にふと心附いてある時吉原へ行き、種々聞いて歩くと、近頃三浦屋の小紫に血道を揚げてゐる若侍といふのが、どうも尋ねる敵の權八らしい、そこで立歸つて兄に話をしたから、助八も大きに喜びました、夫から二人が代る〜吉原へ入込んで實否を確めやうと思つてゐるが時至らざるかしていつも權八と行違ひになつて遇へない。

石炭
コークス
豆炭

平驛前

阿部石炭商店

電話三七番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫

電話六三〇番

(申込次第規則書進呈)

市貝焼魚

産土市

平町南町

電話一九二番

最優最大日本生命平代理店

志賀盛榮

(三一二電)目丁四平

外全科
内小兒科

醫學博士 渡部義夫

女 醫 渡部きい子

平町南町大通り「電話二七七番」

渡部外科

入院應需

新車御披露

三四年型デラックスセダンが
入荷致しました
貸切の御用命の節は
電話六八五番へ……
是非御試乗の程を願ひます

三井タクシー
電話六八五番

外科

門專
科線光X

上田外科醫院

平町南町
電話一九二番